



所沢市長 藤本 正人氏

市長のメッセージ

「首都圏に位置し生活利便」、「武蔵野の雑木林や狭山湖など豊かな自然」。この魅力あふれるふるさとを未来のこどもたちに継承するため、昨年11月に「ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

高齢化に人口減少、そしてまちのスポンジ化が進む中、今まで通りの拡大・成長路線は後世に禍根を残します。所沢市は文化と自然の中での成熟したまちづくりを目指します。気候危機も待たなし。支え合う力や人間力を頼みにし、自然と調和した「人を中心にしたまちづくり」に取り組みます。

はじめに

所沢市は、埼玉県の南西部、都心から30km圏内に位置し、東は新座市、北東は三芳町、北は川越市と狭山市、北西は入間市、南は東京都にそれぞれ接している。市域は、東西約15.1km、南北約8.9kmで、面積は72.11km²、人口34万人を超える県内有数の都市である。

市内には、西武新宿線と西武池袋線が交差する所沢駅をはじめ、計10の鉄道駅がある。市を東西に貫く国道463号が、関越自動車道所沢ICと連絡していることもあり、交通の利便性が極めて高い。

所沢市は、1911年に日本初の飛行場が設置された航空発祥の地であり、現在はプロ野球チーム・埼玉西武ライオンズやプロバスケットボールチーム・さいたまブロンコスが本拠地を置くことでも有名だが、一方で、狭山茶や里芋、ほうれん草といった農産物の生産が盛んなまちとしても知られる。



所沢市観光情報・物産館「YOT-TOKO」完成イメージ図

所沢市観光情報・物産館「YOT-TOKO(よっとこ)」

本年5月、東所沢の大型複合文化施設「ところざわサクラタウン」の隣接地に、所沢市観光情報・物産館「YOT-TOKO」がオープンした。

「YOT-TOKO」は、市の観光資源や特産物等の魅力をPRするための施設である。その愛称は、「よいもの(Y)」、「おいしいもの(O)」、「たのしいもの(T)」をあらわす3文字の後に、所沢の「TOKO」を付けたもので、「所沢市にぜひとも寄って欲しい」という願いが込められている。

東川をはさんで「YOT-TOKO」と隣り合う「ところざわサクラタウン」も、昨年11月6日にグランドオープンを果たしたばかりの注目スポット。株式会社KADOKAWAの書籍製造・物流施設やオフィスとしての機能を有するほか、イベントスペースやホテル、所沢の地元食材を味わえるレストランや各種ショップ、カフェなど様々な施設が集まっている。なかでも建築家・隈研吾氏が手掛けた「角川武蔵野ミュージアム」は、マンガ・ラノベ図書館やアニメミュージアムなどを併設する、わが国最大級のポップカルチャーの発信拠点となっている。

所沢市と株式会社KADOKAWAは、世界にアニメやゲームをはじめとするクールジャパン文化を発信するとともに、市の魅力である「みどりと文化」を活かして市の発展に寄与しようとする共同プロジェクト「COOL JAPAN FOREST構想」に取り組んできた。

所沢市概要

人口(2021年3月31日現在)	344,014人
世帯数(同上)	164,287世帯
平均年齢(2021年1月1日現在)	47.1歳
面積	72.11km ²
製造業事業所数(工業統計)	248所
製造品出荷額等(同上)	1,830.2億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	1,797店
商品販売額(同上)	5,209.4億円
公共下水道普及率	94.4%
舗装率	80.5%

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR武蔵野線 東所沢駅
- 西武新宿線 所沢駅、航空公園駅、新所沢駅
- 西武池袋線 所沢駅、西所沢駅、小手指駅、狭山ヶ丘駅
- 西武狭山線 西所沢駅、下山口駅、西武球場前駅
- 西武山口線 西武球場前駅、西武園ゆうえんち駅
- 関越自動車道 所沢ICから市役所まで約7km

市は、「YOT-TOKO」と「ところざわサクラタウン」を中心に、周辺の東所沢公園や東川の桜まで含めた地域の一体的な整備を進めている。

将来的には、幹線道路や鉄道路線を通じて、所沢カルチャーパークや狭山湖、三富新田をはじめとする市内外の観光拠点等との連動性を高め、国内外からこの地を訪れる人が、市域全体そして周辺自治体等にまで足を伸ばすような、新たな人の流れを生み出すことを目指している。

★下水道マンホール蓋を活用した有料広告事業

所沢市では、下水道施設の老朽化等に伴う下水道事業における経営環境の悪化を背景として、民間事業者等の宣伝広告を下水道マンホール蓋に掲載する全国初の有料広告事業を2018年度に開始した。

市内に約45,000基設置済みのマンホール蓋のうち、主に駅前周辺の歩道上の蓋を対象として事業を展開し、2021年4月現在、20社30カ所のマンホール蓋広告が市内に設置されている。色鮮やかにデザインされたマンホール蓋は、新たな収益を生み出したほか、観光名所にもなり、下水道事業のイメージアップに寄与する効果をもたらした。

本事業は、総務省の「地方公共団体における行政改革の取組」で、優良事業として取り上げられたほか、昨年8月には新たに夜間に光るイルミネーションマンホール蓋広告を展開し、国内外で注目を集めている。

★所沢市マチごとエコタウン推進計画

首都圏のベッドタウンとして急速な発展を遂げ、都市化が進んだ所沢市だが、今も武蔵野の面影を残す豊かな自然に恵まれている。市はこの環境を未来へ継承するため、「持続可能な環境づくり」、「共生を実現する環境づくり」、「市民協働による環境づくり」という3つの基本理念の下で、「所沢市マチごとエコタウン推進計画」に取り組んでいる。

具体的には、「再生可能エネルギーの普及を推進するため、公共施設に太陽光発電システムなどを積極的に整備する」、「野生生物の生息・生育環境を保全するため、樹林地や水辺、農地の保全により、それらを繋ぐエコロジカル・ネットワークの形成に努める」、「リユースやリサイクルに関する体験講習会等を開催し、市民の『もったいないの心』を醸成する」などの各種施策を通じて、「“人と人”、“人と自然”との絆で、子どもたちの未来を紡ぐ エコタウン所沢」の実現を目指している。

(井上博夫)



広告マンホール蓋を目当てに遠方からの来訪者も